

●猿島小6年 山本 凛
アルゼンチン派遣事業に
参加して

アルゼンチンは日本から30時間（飛行機の移動時間は24時間）という遠い国で、最初は少し不安もあったけど、一緒に行った境町の友だちと協力して、とても楽しい思い出ができました。



アルゼンチンでは、エスコバル日本語学校、日亜学院、ハボン小学校、サンミゲル校の四つの学校を訪問し、授業を受けたり、一緒に歌ったり、おどったり、スムージーを食べたりして現地の小学生と交流をしました。最初は、言葉も通じないし、緊張もしましたが、幼稚園の頃から参加しているスポーツ教室やキャンプの三つの「安全ルール」①「身体の安全」、②「環境の安全」、③「心の安全」をしっかり守って、積極的にアルゼンチンの小学生と交流することができました。

今回のアルゼンチン派遣事業に境町の小学生代表として参加できたことは、たくさんの友だちや体験が出来ただけでなく、仲間と協力することの大切さや、外国の小学生と交流することの難しさ、楽しさを知る、とても貴重な経験だったと思います。今回のアルゼンチンの沢山の思い出と経験を活かし、これからも頑張っていきたいと思ひます。



ホームステイ先の家族と記念撮影

●境小5年 佐々木 隆光
アルゼンチン派遣事業に
参加して

ぼくは、この派遣事業に参加して、初めての飛行機、初めての海外、初めての海外ホームステイ、沢山の初めての経験してきました。



飛行機は、すごく時間がかかったけど、ずっと楽しくて、全然たいくつしませんでした。

アルゼンチンに着いてからは、現地の学校訪問をしました。日亜学院という大きな学校では、ニッポンマニアというお祭をやっていました。ぼく達は、そこでサンパ・デ・ミ・エスペランサを歌いました。境町の小学校紹介の発表もしました。

不安なホームステイでも日本語が少し通じて安心しました。ホームステイ先では、たくさんのお土産をもらいやさしくしてもらいありがたかったです。現地で飲んだマテ茶はとても苦く、日本で飲んだマテ茶と全然違いました。

ぼくは、アルゼンチンの良いところを、沢山教えてもらいました。今度、東京オリンピックなどで日本に来てくれた時に、ぼくも、沢山のおもてなしをしておかせたいと思ひます。



神秘的な雰囲気の大聖堂

●境小5年 倉持 雄樹
アルゼンチン派遣事業に行っ
て

境町を出発して、まず成田空港へ高速バスで行き成田の飛行機でダラス空港への十二時間の長旅が始まりました。



ダラス空港で夕ご飯を食べた後飛行機に乗ったら、五時間の間、機体のトラブルで離陸できませんでした。とちうで体調をくずして、病院へも行きましたが、アルゼンチンについてからは無事みんなと合流し、いっしょに交流活動を行うことができました。

次の日、茨城県人会のみな様にかんげい会を開いてもらい、チヨリパンやエンパナーダを食べました。ブエノスアイレスに移動してからは、日亜学院の文化祭についてサンパ・デ・ミ・エスペランサをみんなで歌いました。

おみやげを買ったフロリダ通りでは、食べ物、小物、洋服などあらゆるお店がそろっていました。

最後に、派遣事業で一番楽しかったことは、向こうの子供とサッカーやゲームなどで遊んだことです。

ぼくはこのアルゼンチン派遣事業に参加してすごくいい思い出ができました。



茨城県人会の皆さんによる歓迎パーティー

●長田小5年 関 さくら
アルゼンチン派遣事業に
参加して

私は、十日間アルゼンチンに行って、たくさんの事を学び、たくさんの思い出が出来ました。



最初に、エスコバル日本語学校を訪問しました。そこでは、お互いに自己紹介などをしました。私達は、「サンパ・デ・ミ・エスペランサ」を歌い、その後、一緒にアルゼンチンのダンスを踊ったり、鬼ごっこや卓球を楽しんだりしました。

日亜学院では、九十周年のお祭りをやっています。私達は雑誌の取材も受けました。また、私は五年生の教室で、一緒に授業を受けました。スペイン語が分からないときに、クラスの子がジェスチャーなどを使って教えてくれて、とてもやさしく親切にしてくれました。

お世話になったホームステイ先では、女の子とすぐに仲良くなり、とても楽しく遊びました。

今回のアルゼンチン派遣事業で、貴重な体験をたくさんすることができました。そして、アルゼンチンでの体験をみんなに伝えて、自分の生活にも生かしていきたいです。

本当にありがとうございました。ムーチャスグラシアス。



日亜学院での交流ダンス

●長田小5年 片倉 未依奈
アルゼンチンでの思い出

私が一番心に残った事はホームステイです。スペイン語はあいさつくらいしかわからないので不安でいっぱいでしたが、ジェスチャーを使い会話する事ができました。四回目のホームステイでは、スペイン語の分からない私達に、アルゼンチンの人達はきちんと話を聞こうとしてくれてやさしいと思いました。各家庭の料理はとてもおいしく、名前入りのクッキーを頂いた事がとてもうれしかったです。



日亜学院には二度、訪問しました。一度目の訪問では、巻き寿司を頂きました。当日は文化祭があり、生徒達が太鼓を演奏していて驚きました。

また二度目の訪問では、マテ茶やアルファボールというアルゼンチンのお菓子の作り方を教えてもらいました。休み時間には鬼ごっこをして楽しかったです。

六日間、アルゼンチンで過ごした時間は、本当にあっという間でした。

アルゼンチンでは、とても貴重な体験をたくさんさせて頂き、もう一度アルゼンチンに行きたいなあと思いました。そして私が体験した事を、たくさんの人に伝えていきたいです。



日亜学院で食べた巻き寿司

●長田小5年 齊藤 秀葵
アルゼンチン共和国派遣事業で
学んだこと

僕は、アルゼンチン共和国派遣事業を通して、印象に残った事が三つあります。



一つ目は、一回目のホームステイの家の近くには、八百屋、肉屋、パン屋さんがありました。八百屋では、見た事もない野菜がたくさんありました。肉屋では、とても大きい肉のかたまりがありました。パン屋では、いろいろな形のパンがありました。

二つ目は、テマイケン動物園での事です。特に鳥の数が多く興奮しました。見る事ができてよかった鳥を一位から四位に並べると一位オニオオハシ、二位ヒクドリ、三位カンムリヅル、四位タンチョウです。この動物園では、まだまだ知らない鳥がいたので、もう一回行きたくなくらい自分にとっていいところでした。世界中の不思議な鳥をもっと知りたいと思ひました。

三つ目は、アルゼンチンの人たちのことをすると必ず返してくれました。日本と同じでほっとしました。

これからも、他の国にも目を向け、がんばってお金をため、いろいろな国に行ってみようと思ひます。



テマイケン動物園には様々な鳥がいました

派遣児童感想文 ※一部抜粋

●静小5年 石井 香帆
十日間の宝物

アルゼンチンで一番、心に残っているのは「学校訪問」と「ホームステイ」です。その中でも印象的だったのは、「日亜学院」です。創立九十周年をむかえ、記念祭を行いました。日本の着物、書道や太鼓などを披露しており、書道は日本人の私より上手でびっくりしました。日本の文化をこんなに大切にしてくれているなんてうれしかったです。また、日亜学院では図画工作と算数の授業に参加しました。



ホームステイは四回しました。ホストファミリーとはスペイン語でコミュニケーションをとることができました。食事はおいしいお肉とマテ茶、お味噌汁も作ってくれました。アルゼンチンの友だちもたくさんできました。

言葉も食事も生活スタイルも花も、日本とは違いましたが、町人も茨城県人会の方もホストファミリーもみんなあたたかかったです。「アルゼンチンに行きたい」と願ひ、それが現実となり、参加できたのは、家族や先生方、一緒に行った仲間、境町の方など沢山の人が支えられて実現できたことだと思ひます。私にとって、とても充実した時間、この十日間は宝物となりました。



スペイン語での注文も経験しました

●森戸小6年 中村 隼人
アルゼンチン共和国派遣事業
に参加して

僕は、外国に行くのも初めてで、何もかも初めてのアルゼンチン派遣事業でした。アルゼンチンに着いて思ったことは、広い道路と広い空でした。空気がとても乾いていました。



それから僕達は、アルゼンチンの各学校を訪問しました。たくさんの人の前で、境町の学校紹介を一人ずつ発表したり、サンパ・デ・ミ・エスペランサを歌いました。とても良い交流ができました。アルゼンチンの方と沢山ふれあえたことで僕も成長できたと思ひます。

また、ホームステイでは、二つのファミリーのどちらとも、とても親切にしてくれて楽しく過ごせました。

それと、アルゼンチンの食べ物、とてもおいしかったです。その中でもビーフカツは、僕の顔の大きさぐらいありました。日本は品数の方が多いのに対して、アルゼンチンは量の方が多かったです。

十日間は短く感じましたが、いろいろなことを学びました。たくさんの人の協力で僕達は、安全に楽しく派遣事業を終えることができました。ありがとうございました。



顔くらい大きなビーフカツ

●森戸小5年 柿沼 拓馬
わすれられない十日間

飛行機で三十時間、日本からみて地球の真裏にあるアルゼンチン。ぼくは、どんなところなのかワクワクしながら、日本を旅立ちました。



エスコバル日本語学校では全校生徒二十人くらいの小さな学校のみならず、ぼくたちを歓迎してくれて、うれしかったです。言葉は通じなかったけど、スポーツを通じて、距離を縮めることができました。

宿泊は、ホームステイでした。アルゼンチンは、スペイン語が公用語なので、そこでは思っていることを伝えることが難しかったです。けれども一生懸命にコミュニケーションをとろうとしてくれて、やさしさを感じました。言葉が通じ合う、思ったことを伝えることがどれだけ大切か、アルゼンチンに行って初めて気がつきました。

東京オリンピック・パラリンピックでは、アルゼンチンリーダーとしてアルゼンチンの人を歓迎したいと思ひます。

アルゼンチンに行くという、貴重な体験をして沢山の思い出ができました。本当に心に残る十日間でした。



エスコバル日本語学校での交流の様子

●長田小6年 野村 愛莉
アルゼンチンへ行って

エスコバル日本語学校は、初めての学校訪問だったので緊張していましたが、みんな温かく歓迎してくれました。一緒にダンスをおどったり鬼ごっこや卓球をしたり、とても楽しい時間を過ごしました。



次に日亜学院では、去年長田小学校を訪問してくださった高校生が私達を歓迎してくれました。私たちがアルゼンチンへ行って再会できた事が、すごくうれしかったです。

滞在中は二度のホームステイをさせて頂きました。二度目のホームステイでは、日本語が分からないお宅だったので不安でしたが、ゲームをしているうちに、一緒に笑うことができ、お互い言葉が分からなくても友達になれるんだという事が分かりました。私にとってホームステイは、とても貴重な体験になりました。

アルゼンチンに行ってみて、たくさんの貴重な体験をすることができました。見た物、食べた物、たくさんの人たちとの交流、この経験を生かして、2020年の東京オリンピックの時に何か役に立てたいと思っています。



おみやげに日本の煎餅などを贈呈

●長田小6年 津佐 昭道
アルゼンチン共和国派遣事業
に参加して

ぼくが一番心に残ったアルゼンチンの歴史を紹介しました。それは、ピンクハウスという建物です。名前の由来は、建物全体がピンクにぬらされているからです。昔は、ピンクという色がなくて、たくさんいた牛の血と、石灰を混ぜてピンクを作ったそうです。ぼくは、ピンクハウスを目の前で見ることができ、とてもすごいと感じました。



次に食事についてです。アルゼンチンでは、肉料理、パンなどの食事がメインでした。肉料理でおいしかったのは、アサードという肉料理です。牛肉を揚げたものと、マッシュポテトのようなものがありました。

次にホームステイの事です。ホームステイ先の人、とても優しくしてくれ、初めてのホームステイでこんなに楽しかったのがとてもうれしかったです。

最後に、アルゼンチンへつれていってくださった方々、本当にありがとうございました。この思い出や、周りの人々の優しさ、学んだことを生かして、将来に役立てたいです。



ピンクハウスと呼ばれる大統領官邸

●長田小5年 館野 穂香
楽しかったアルゼンチンとの
交流

アルゼンチン交流を通してうれしかったことが三つありました。



一つ目は、アルゼンチンの友達がたくさんできたことです。ホームステイ先で5人の友達が来て、日亜学院では6人できました。校内を案内してくれたり、作業の説明をしてくれたりとてもやさしく、明るい友達でした。

二つ目は、アルゼンチンの人たちは裏側にある日本のことを良く知っていることです。日亜学院では、「和太鼓」や「盆踊り」を披露してくれました。日本でも、アルゼンチンのことを学ぶ機会をもっとつくってほしいです。

三つ目は、アルゼンチンの街なみや生活を実際に見られたことです。特に「カミニート」が印象に残りました。家がカラフルで日本では見られない建物でした。

アルゼンチンの人たちはみんなやさしく、日本のことを大事にしてくれていることが分かりました。見学した場所以外にもたくさん行ってみたいですね。日本の良さをたくさん教えて、長田小や境町との交流をもっと深めたいです。



カラフルな街並みが印象的な「カミニート」

派遣児童感想文 ※一部抜粋